

講座名	水戸街道の宿場町小金宿 ～ 宿場の痕跡と戦国時代の山城を探検		
開催日時	2022年3月27日(月) 10時00分 ～14時		
開催場所	松戸市	一般参加者	21名

今回は江戸時代に大名や一般庶民が通った水戸街道の宿場「小金宿」を歩き、戦国時代のお城「根木内城」址をめぐりながら植物観察を行うという企画でした。幸い前日までの雨も上がり天気にも恵まれ桜も綺麗に咲いた一日となりました。

北小金駅近くに設置されている説明版や絵を使い、小金宿の概略と幕府が馬を放牧していた小金牧（こがねまき）について、また水戸徳川家の専用の宿舎である水戸御殿や関東十八檀林の一つ「東漸寺」があったことなどを説明してから三班に分かれ歩きだしました。

東漸寺では樹齢350年の枝垂れ桜が咲き、樹齢400年の鶴亀の松の大きくうねった枝ぶりに驚嘆しました。タラヨウの木では本当に文字が書けるのかを落ち葉で試し、別名「はがきの木」と言われる理由も納得しました。



江戸時代の旅籠「玉屋」は当時の建物がそのまま残っており黒く太い柱などに歴史の重みを感じました。他にも江戸時代から続いている家がたくさん残っており、宿場の名残がいたるところにありました。一月寺という虚無僧のお寺の本山があったのも小金宿の特徴の一つでした。

「あめや」という名前で「飴家」を商っていた家のイ

ヌマキの巨木はブロッコリーの様な形に良く手入れされ、「クレーンでも持ってこないとなまで手入れできない。いったい剪定に幾らかかるんだろう」という声もあがっていました。

根木内城跡ではユキヤナギとレンギョウ、桜の綺麗なコントラストが見られました。その桜を見ながら昼食タイム。その後、八代将軍徳川吉宗公が小金牧で行った御鹿狩（オシシガリと読みます）や根木内城の歴史について説明の後、水戸街道を歩いて出発地点の北小金駅まで戻りました。



なお、希望者はあじさいで

有名な本土寺までご案内。「あめや」の主人らが建てた「芭蕉の句碑」、徳川家康の側室「秋山夫人の墓」、日蓮宗として初めて京都にお寺を建てた「日像上人」を祀る像師堂などを見学しました。

